



第41回 卒業証書授与式 学校長「式辞」

校長 中山 勝喜

第四十一回卒業生の皆さん、いよいよこの日が、お別れの日がやってきました。中学校の卒業、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

皆さんがちょうど小学校の卒業を迎えようとしていた時期から、その後本校に入学して過ごしてきた、この三年の年月は、まさに新型コロナウイルス感染症との戦いの毎日であったと思います。本校入学直後も休校が続き、再開されてもたいへんな緊張感をもって感染防止に努めなければならず、夏休みも短くなるなど、これまで誰も想像もしたことのない形での学校生活となりました。しかし、そんな中でも、皆さんは若者らしく日々を謳歌し、できることには全力で取り組む、という姿勢を持ち続け、今日までよく頑張ってきてくれました。中でも特に今年の学校祭や合唱コンクールでは、自分たちも初めての取り組みながら、後輩たちをリードし、最上級生らしく生き生きと活動する姿を見せてくれたことは、賞賛されるべきすばらしいものでありました。

いまこうして、その立派な皆さんの旅立ちを祝い、ご来賓を迎え、保護者の皆様をお招きし、1・2年生の後輩たちも揃って本式を開催できましたことは、ほんとうによかったと感じています。ご来賓の皆さま、保護者の皆さま、マスク着用をお願いほか、さまざまな制限へのご理解のもと、こうしてお集まりいただきましたこと、深く感謝申し上げます。子どもたちも喜んでいることと思います。

さて、いま皆さん一人一人に卒業証書をお渡ししました。この緊張のなかで、しっかり返事をして受け取ってくれたその証書は、本校での3年間で皆さんそれぞれが確実に成長を遂げたことの証です。いまのこの立派な姿を保護者の方々に見ていただけたことは、これまで育ててくれたことへの感謝と恩返しにもなったことと思います。これまでよく頑張りました。ぜひ自信をもって、4月からの次のステージへと、しっかりとした一歩を踏みだして行ってください。

今日は、義務教育を終え、それぞれが選ぶ道へと旅立っていく皆さんへ、私が特に願うこと——それは、先日の教室での講話の場面でもお話ししましたが——自分のことを真剣に考えてくれる人のアドバイスを聞き、計画や見通しをもった科学的な方法によりつつ、自分を信じ、目標をもって努力する人生を送ってほしいと、そして、正直な姿勢と感謝の心を常にもち、たとえ小さくても自分にできることで世に貢献することを考えて行ってほしい——このことをあらためてお伝えさせていただきます。これからの長い人生では、さまざまなことが起こり、さまざまな人との出会いがあると思いますが、他人と比べることや、自身の損得によつての満足を目指すのではなく、人と協力し自分の良さを発揮したり、自分なりの努力で自分が成長していく喜びを感じることで、心の豊かさや幸せを感じていける、そんな生き方を目指して行ってください。SDGs、共生社会の担い手として、皆さんがこれからやさしい時代をつくらせてリードしていただけることを願っています。

最後に、保護者の皆様、いまここにいるお子さんの姿は、これまでの15年にわたるご家族の子育てへの努力の結実であり、こうしてお子さんが義務教育を終えることは、皆さまにとってもたいへん意義深いものと思います。皆さまのこれまでの子育てにおける努力や苦勞へのねぎらいと、注いできた深い愛情への感謝を、ここにいるすべての子どもたちに代わって私から申し述べさせていただきます。これまでほんとうにありがとうございました。ただ、まだこの子たちが大人として独り立ちしていくまでにはもう少しの時間が必要です。これからも彼ら彼女らに対する一層の見守りと応援をどうぞよろしくお願いいたします。

3年間にわたり、本校の教育活動へのご理解とご協力、まことにありがとうございました。今後も地域の青葉中学校への変わらぬご支援をお願い申し上げ、本日の式にあたっての私からの挨拶とさせていただきます。

送辞

冬の厳しい寒さも去り、ほのかに春の香りを感じる今日、ご卒業を迎えられる三年生の皆さん、本当におめでとうございます。在校生を代表して心からお祝い申し上げます。

三年生と過ごした時間は驚くほどにあっという間で、今日こうして羽ばたいていく皆さんの姿を見ると、頼もしさと同時に寂しさを感じてしまいます。しかし、それよりも伝えたい沢山の感謝があるので、少しだけ耳をお貸し下さい。

三年生は、様々な色が集まった素晴らしい学年だな、と思います。例えば、はっきり意見を言う方もいれば、周りを見守りじっくりと考える方もいて、一人一人の色があることは素敵なことだな、と尊敬しています。しかし同じ目標を目指すときの団結力の凄さも、行事を通していつも感じていました。個性と団結力を学年として成り立たせるのは、容易にできることではないと思います。

そんな学年の雰囲気から生まれる優しさで、私達後輩をいつも支えてくれたことにも、とても感謝しています。自分自身のこと、後輩との関わりもこなすのは、きっと大変だったと思います。辛くなったり、投げ出したくなったこともあったかもしれませんが、それでも三年生は、全てのことに丁寧に向き合ってくれました。皆さんご自身も初めての経験が多かったであろうコロナ禍での行事では、制限のある状況の中でも後輩の記憶に残るような完成度の高いものを見せてくれました。後輩には、話しかけやすい空気ですて接してくれました。そのように、誰も見ていない所でも、三年生が努力し続けてくれたおかげで、私達一、二年生は安心して過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

また、私が事務局や部活でお世話になった先輩もいます。事務局では、行事の進行で急な変更があってもすぐに対応する姿や、学校祭で生徒全員が楽しめるように様々なアイデアを企画として作り上げている姿が本当に格好良かったです。部活では、コンクールでも安定して歌い切る先輩を、後輩として誇りに思いました。そして、私が苦手を少し克服した時、「上手くなったね!」と伝えてくれたのがすごく嬉しくて、今でも私の支えになっています。ありがとうございます。

こうして感謝を伝えてみると、本当に何もかもしてもらってばかりだったな、と思います。私も何か恩返ししたいので、生意気かもしれませんが、三年生のこれからを応援させてください。

三年生が青葉中学校で過ごした三年間は、きっと皆さんのこれからを支えてくれるはずですよ。私達後輩もずっと応援していますし、皆さんには家族や友達など支えてくれる人が沢山います。だから、自分のしたいことに正直に、自分を大切に生きていってほしいと思います。もし辛くなる時があったら、ためらわずに休んで良いと思います。周りと一緒にいようと思わず、皆さんが自分らしく活躍できることを、陰ながら祈っています。

青葉中学校はこれから、小中一貫の義務教育学校として変化を遂げていきます。それに向けて、皆さんが残してくれた沢山の思いやりを引き継ぎつつ、より生徒自身がつくる学校にしていきます。私も在校生の代表として、皆さんが胸を張れるような母校を残していく決意なので、心配せずに前に進んで下さい。

改めてになりますが、いつも優しく接してくれてありがとうございました。拙い言葉でしたが、感謝と応援の気持ちが少しでも伝わっていただければ嬉しく思います。三年生の皆さん、ご卒業、本当におめでとうございます。ずっとずっと、応援しています。



令和五年三月十五日
在校生代表

答辞

肌寒い風が吹きつつも、冬の寒さも和らぎ始め、暖かな陽の光が春の訪れを感じられるようになった今日この頃、私たち三年生は卒業の日を迎えます。

本日は私たちのために素晴らしい卒業式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。ご多忙の中、私たちのためにご出席下さいました保護者の皆様、先生方、在校生の皆さんに、卒業生一同心よりお礼申し上げます。

私たちの中学校生活は、新型コロナウイルスが突如として現れ、世界中が大きな混乱の渦にのめられた2020年春から始まりました。新しい制服に袖を通し、新たな生活に胸が弾むのと同時に、連日のコロナウイルス感染拡大のニュースに不安を感じながら入学式を迎えました。入学して数日で休校になり、6月にやっと登校することができましたが、常にマスクをつけなければならない生活、部活動も何度も休止になり、青葉中学校の伝統行事も中止や規模が縮小され、制限をかけてのものになりました。今まで当たり前できていたことができなくなってしまう、予想外のことばかり起こる生活、私は普通に何不自由なく生活できるということが当たり前のことではなく、とても幸せなことだったんだと実感しました。しかし、そのような中でも、今できることを精一杯やっていこうと取り組む先輩方や、熱心に協力して下さる先生方の姿を見て、私たちは勇気づけられました。

二年生になっても状況は変わらずでしたが、陸上競技大会ではクラスで一致団結して仲間を応援し、一人一人が力いっぱい競技をし、達成感を味わうことができました。一度は延期を余儀なくされた宿泊学習では、今まであまり話していなかった生徒たちとも話す機会ができ、仲を深めることもできました。生徒一人一人が与えられた環境の中で、楽しく前向きに過ごしていったことは、本当に価値のあることだと思います。

三年生。新型コロナウイルスを取り巻く環境も少しずつ変化していきました。心待ちにしていた修学旅行は予定通りに行くことができ、旅行先ではたくさんの新しい景色を目にしました。学校祭では、ステージや教室で自分たちの作品を披露し、青葉中学校が一体となったイベントとなりました。私たちにとって、中学校生活で初めて最後となる合唱コンクールでは、各クラスで仲間と力を合わせ、歌うことが好きな人も苦手な人も一生懸命に練習を重ね、一つのものを作り上げていくことができ、仲間の団結力と底力を感じました。緊張感漂う中、みんなて円陣を組み、心をつにして頑張ったことは、私にとって忘れられない貴重な体験になりました。

多くの経験を積み、前例のないコロナ禍という困難を乗り越え、充実した3年間を送ることができたのも、先生方をはじめ、後輩の皆さん、先輩方、そして三年生の皆さん、保護者の方々の支えがあったからです。先生方には、どんな状況でも適切に対応していただき、いつも親身に向き合ってください、感謝の気持ちでいっぱいです。また直接関わりがなくても、陰で支えてくださった職員の皆さん、今まで本当にありがとうございました。後輩の皆さんは、私たちを助け、力を貸してくれる良き後輩でした。皆さんがつくりあげていく新しい時代に期待しています。また、私たちの一番の応援者であり、そばで見守り支えてくれた保護者の皆様。毎日「いってらっしゃい」と背中を押してくれ、「おかえり」と変わらず迎え入れてくれました。心配をかけてしまったこともありました。時には喝を入れてくれたり、励ましてくれました。ありがとうございました。これからも私たちの成長を見守り、人生の先輩として良きアドバイスをよろしくお願ひします。そして、三年生の皆さん。楽しい時はもちろん、仲間であってくれてありがとう。皆さんと同じ時間を共に過ごせたことを嬉しく思います。これからは別々の道を歩んでいきますが、青葉中学校で過ごしたかけがえのない日々は、心の財産として三年間頑張った証として残っていくことでしょう。それはきっと、これから困難にぶつかったとしても、乗り越えていく力として身につけているはずですよ。これからも、自分を信じ、強い心で、日々新たなことに挑み続け、新しい景色を発見していきましょう。

最後になりますが、青葉中学校のさらなる発展とご活躍を心からお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和五年三月十五日
卒業生代表